

この40年の思い出の天文現象

編集・高橋 章(A)

同好会結成前夜

1971年「天文同好会・サザンクロス」の前身である「ジュピター天文同好会」が、春日井市の高校生によって結成されました。当時の事情を少し振り返ってみましょう。私自身の入会は1987年頃なのですが結成当時やはり高校生でしたので、同じような歴史の中で天文に興味を持ちながら来たと思います。

(1960年代)

1960年、「高橋製作所」が天体望遠鏡の製作を開始。

1964年、「ボストーク1号」で「ガガーリン」が人類初の有人宇宙飛行に成功。

1966年、「ビクセン」が望遠鏡の販売を始める。

1967年、「天文ガイド」創刊。

1969年、「アポロ11号」が月面に着陸。

※ その他の天文誌

1934年、「天気と気象」創刊。1949年に「天気と気象」に改題。

1984年、「月刊天文」へと改題。2000年休刊。

1978年、季刊誌「星の手帖」創刊。1993年休刊。15年間で60号発刊。

1983年、「スカイウォッチャー」創刊。2000年休刊。後継誌「星ナビ」へ

戦後の復興と宇宙開発が天文への興味に繋がり、望遠鏡メーカーや天文雑誌の創刊や当時日本人による新彗星の発見が相次いだのも天文への興味を高めていった要因だったと思います。

特に1965年の「池谷・関彗星」は、当時20世紀最大の彗星と言われました。

池谷氏は、1963年に19歳で最初の彗星を発見し立て続けに4個の彗星を発見したそうので、「池谷・関彗星」発見当時でも22歳ですから若い天文ファンでも十分発見のチャンスが有ると思わせるには十分でした。

その池谷氏は2010年に7個目と成る「池谷・村上彗星」を発見しました。

その情熱にはただ脱帽するしかありません。

(1971～1975)

西暦	元号	主な天文現象	写真・機材など
1971	昭和 46		トライ X などモノクロ中心
1972	昭和 47	皆既月食 (1/30) ・ 幻のジャコビニ流星群	
1973	昭和 48		X レイフィルム
1974	昭和 49	コホーテク彗星 (1 月頃) ・ 明け方の金星食 (3/20)	フジクローム R100
1975	昭和 50	はくちょう座新星 (8/29)	コダック 103aE

1972年 ジャコビニ流星群

(田村) 自宅の裏山の大学キャンパスで観望大学生のサークルの横で空を見上げていた。1時間ほど見上げていたが出現せず、引き揚げた。

(船戸) 自作 (部作) 4連カメラをニコン 8 cm の架台に載せ内津峠へ持ち込むシンクロナスモーターの電源を借りるために採石所の事務所へ菓子折り持って挨拶に行った。

1972年 皆既月食

(大野) 小学校1年生の時、おそらく生まれて初めて見た天文現象で、夜の7時か8時ころに玄関先で父に見せてもらった覚えがある。赤い月が東にあったのが印象的だった。当時、まだ天文など知る由もない私がいつものように輝いていない月を見て、何か不思議な事が起こっている (月が光り損なっているのか) とおぼろげながら感じた月食だった。

1974年 コホーテク彗星

(船戸) 自宅前で50×7双眼鏡で眺め、やたら細長い尾が辛うじて有るような？

(大野) 小学校3年生の天文に興味を持ち始めた頃に現れた彗星。新聞かニュースで西の空の金星と木星の間に見られると知り (記憶は定かではないが)、日没直後のまだ空が明るいうちに、家の近くの長良川堤防へ彗星を捜しに行った覚えがある。当時、天文に関してはまだ経験が浅かったため、当然ながら、日没直後の明るい空のもとでは彗星を見つけられるはずもなく、残念な思いで帰った思い出がある。



1975年 はくちょう座新星

(船戸) 当時の会員と一緒に庄内川河川敷で星を見ていて気がついた。すでに新星として発表されていたが、私は知らなくてあわてた。いわば独立発見なのだ。

(1976~1980)

西暦	元号	主な天文現象	写真・機材など
1976	昭和 51	ウエスト彗星(3月頃)	
1977	昭和 52		モータードライブが普及
1978	昭和 53	皆既月食(3/24)	
1979	昭和 54		ボイジャー1、2号木星に接近
1980	昭和 55		サクラカラー400

1976年 ウエスト彗星

(田村) TRI-X全盛時代、自宅で明け方毎日見ていた。薄明が始まってもしっかり見えていた。当時は、モーターなど買えず、手動ガイド。彗星核を入れたら3つに分裂していた。

(船戸) 毎日定光寺まで通ったが天気が悪く、杉田君と行った1日だけが長大な尾が見えた。その後、笹暮峠で初めてカラーで写した天体写真の対象でもある。



(大野) 新聞かニュースで明け方の東の空の低いところに見られると知り、まだ寒い春先の明け方、眠い目をこすりながら頑張って早起きをし、母とともに家の近くの見晴らしの良い道路上で見た記憶がある。生まれて初めて見たこの彗星は、一気に目が覚めるほどその姿はとてもすばらしかった。地平線近くのあかね色に染まる空の少し上に、すばらしく見事な尾を上方にたなびかせたウエスト彗星の雄大な姿は、今でも脳裏に焼き付いている。これが私のはじめて見た彗星である。ウエスト彗星は、これまで見てきた中で、一番美しい彗星であると確信している。この日以降、私は晴れた日は毎日早起きをして、この頃初めて買ってもらった天体望遠鏡(ミザールの6cm屈折経緯台)を覗きながら、次第に地球から遠ざかりつつあるこの彗星を見えなくなるまで、名残惜しく追っていたことを覚えている。

(1981~1985)

西暦	元号	主な天文現象	写真・機材など
1981	昭和 56		水素増感 TP2415
1982	昭和 57	皆既月食 (1/10)	
1983	昭和 58	木星食(4/30)・IRAS・荒貴・オルコック彗星(5月頃)	
1984	昭和 59		フジ、サクラから 1600
1985	昭和 60		

1983年 木星食

(船戸) 全く知らなかったが偶然気がついて、近所のコンビニへフィルムを買いに走って撮影した。薄雲を通して何とか接近する両天体が写った。

1983年 IRAS・荒貴・オルコック彗星

(田村) 茶臼山で観望、中日新聞の記者が来ていて、取材を受け写真を撮ってもらった。翌日の夕刊と聞いていたが、翌日大ニュースがあり(田中角栄関連?)ボツにがっかり。みるみるうちに移動していくのが判った。

(船戸) 移動の速さに驚いた。6.5P型の架台に杉田君のMT100直焦でノータッチガイドができて、うれしかった。

(大野) 地球にかなり近づいた彗星で、移動が速かった彗星ではないかと記憶している。彗星は明るく、自宅のある岐阜の街中でも見られたが、北の空にボヤーッと拡散した姿しか記憶にない。

(1986~1990)

西暦	元号	主な天文現象	写真・機材など
1986	昭和 61	ハレー彗星(前年 11~4月頃)	
1987	昭和 62	火星食(2/3) ・ 沖縄で金環日食(9/23)	コニカ GX3200
1988	昭和 63	小笠原沖で皆既日食(3/18)	
1989	昭和 64 平成元年	金星食(12/2)	消費税導入(3%)ミード シュミカセが大幅値下げ
1990	平成 2	オースチン彗星期待(4月頃)・レビー彗星(8月頃)	

1986年 ハレー彗星

(田村) 高峰山へ頻繁に出掛けた。当時まだ高峰山は山頂まで道が無く、中腹までで行き止まり。また、高峰山麓までの道も未完成。とんでもない細い道を今の2倍以上の時間を掛けて通った。残土捨て場で観望していた。その頃の高峰山は素晴らしい空で、天の川がはっきり見えハレー彗星もしっかり肉眼で見えた。

(船戸) 最接近のころ、入院していて、病室の窓から双眼鏡で眺めていた。同室の患者に気がつかったり看護婦に驚かれたりしたのが印象的で彗星そのものはしょぼかった。

(大野) 3月頃、当時大学2年生だった私は、両親とともに茶臼山へ見に行った。いて座付近に見えたその姿は、尾が短く期待していたほどではなかったが、一生に一度しか見ることができないハレー彗星を今まさにこの目で見ているという感動を両親とともに味わったことを今でも思い出す。また、4月頃には、ハレー彗星を是非見てみたいという大学の友人を誘い、三河高原牧場まで見に出かけた。この時は、ハレー彗星は確かおおかみ座付近にあったと記憶しているが、この頃ますますの明るさで見えていたように思う。ここで撮影した写真(この頃、初めてカラーの自家現像を手掛けた)をもとに友人と語り合ったことを思い出す。

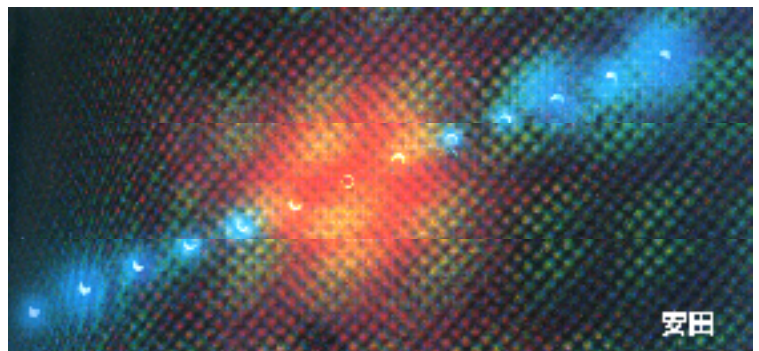
(高橋A) 初めて見た彗星です。子供の頃、祖母から昔、空をおおうほどの長い尾のハレー彗星を見たと聞いていた。残念ながら今回の回帰は位置関係が悪くてショボかったがマスコミの宣伝効果で普段は人に会わない様な場所にも人が居て驚いた。最接近の頃、長島温泉近くの河川敷で10cm望遠鏡を見ていたら家族連れに見せてと言われ、その家族が見終わったら30人以上が列を作っていてビックリしました。

(徳重) ハレー彗星、見たような見てないような・・・。

月食、部分日食、彗星、流星群、それぞれの種類の現象は過去に見ましたが、年号となると、覚えてません・・・。感想は「へえ～、こういう現象なんだー」とそれなりに感動しました。流星群では、特に痕の長いものについては「うわーっ！すごい～」と声が出るほどでした。

1987年 沖縄金環日食

(田村) 今は無きオリオン館のツアーで参加。途中、わずかに雲がかかってサングラス無しで肉眼で直接見えた時、歓声が上がったのを覚えている。

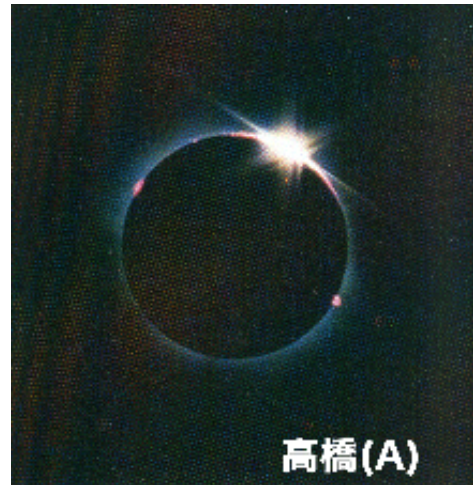


1988年 小笠原日食

(船戸) 神戸から船。晴天に恵まれ大成功。さらに南十字や η カリーナ、 ω 星団も見られて最高だった。

(高橋A) 同好会の船戸、近藤、浅野さんの四名で「さんふらわあ7」のツアーに参加、船酔いしたりキビシイ時もありましたが、初めて見た皆既日食に感激した。俗に言う「日食病」に成り、22年後に上海まで行きましたが・・・。

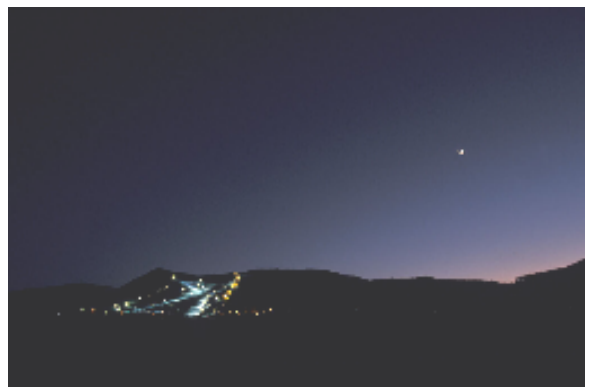
(大野) 大学4年の卒業も間近のとき、大学のサークルの仲間とともに神戸から出航した「さんふらわあ7」上で、生まれて初めて見た皆既日食。雲が散在していたものの、当日は晴れて素晴らしい日食を見ることができた。コロナに覆われたまさに黒い太陽というのが第一印象であった。シルク色に輝くコロナは、太陽の直径の5倍程度まで流線状にのびていたことをはっきりと覚えている。写真とは全く違う生の姿に感動した。また、空が頭上付近で暗いのに対し、水平線上では360度ぐるりと夕方のように薄明るい異様な光景を初めて目にし、不思議な世界にいる気分を味わった。また、日食当日の夜(だったか定かではないが)には、甲板上ではじめて見た南十字星にも興奮した。初めて南天の一部を垣間見ることができた。この航海は、学生生活の最も思い出に残るものであったかもしれない。ちなみに、このとき撮影した日食の写真は、カラーの自家現像と覆い焼きによる焼き付けをして、星ナビの前身の天文雑誌「スカイウォッチャー」に投稿し、6月号のフジカラー広告ページに大きく掲載された(これも初めて自分の写真が雑誌に載った記念すべきものである)。



1989年 金星食

(船戸) STで会員2人と観望。鎌のような月の脇で輝く金星の姿が印象的だった。

(日比) 野辺山天文台を見学した日のことでした。その日に金星食があることに気づかず、天文台の敷地内を歩いて大きな電波望遠鏡に驚嘆したり、写真を撮っていました。夕方になり、駐車場に移動すると月のそばに明るい星があることに気づき、手元にあった天文雑誌をめくって金星食とわかりました。快晴の薄暮の空で接近する月と金星とを、ナイター営業しているスキー場を構図に入れて、残り少なくなったフィルムに収めました。

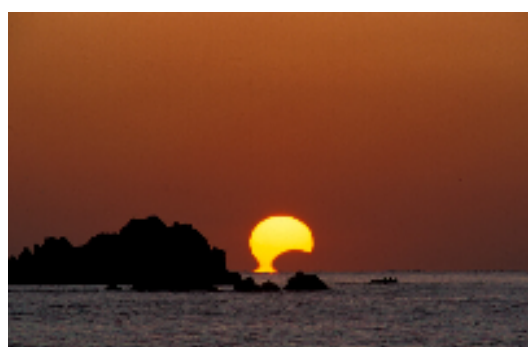


(1991～1995)

西暦	元号	主な天文現象	写真・機材など
1991	平成 3		オートガイダーST-4 登場
1992	平成 4	部分日食 (1/5)	
1993	平成 5	水星の日面通過(11/8)	
1994	平成 6	シューメーカー・レビー彗星木星に衝突(7月)	
1995	平成 7		ウインドウズ95発売

1992 部分日食

(日比) 日の出の日食ということで、撮影地は伊良湖岬に決定。2倍テレコンバーターを購入し大晦日には下見を実施。当日は真夜中に起きて、国道をひた走り、浜辺に到着。空が徐々に明るくなり、太陽が顔を出すとされる位置にレンズを向ける。日の出直後数分が勝負だ。すると、不意に太陽の強烈な明かりが目に飛び込んでくる。予想していた位置と違っていたので、手前の岩が入るように砂浜を走り急いで構図を決める。早速露出変えて3枚ずつ撮影するが、刻々と太陽の位置や明るさが変わるので、露出測りなおし、構図の確認でせわしない撮影となった。マニュアルカメラを使用したがこの時ほど、オートブラケットのできるカメラが欲しいと思った時は無かった。



1993年 水星の日面通過

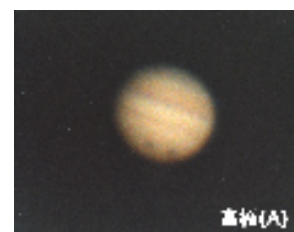
(田村) 写真は撮ったと思う。でも単に点があるだけなので一般受けせずガッカリ

(大野) 小学生のころから一度は見てみたい憧れの現象の一つであった。当日はよく晴れて、太陽面を通過する水星の黒い小さな丸い姿を追っていくことができ感動した。しかしながら、この時撮影した写真が未だに行方不明となっているのは悔やまれる。

1994年 SL9彗星

(船戸) 仕事帰りにST31 cmで撮影。ピースバッチのような木星面が面白かった。

(大野) 衝突痕が小望遠鏡でも見られるということで、当時、東京で勤務していた。私はわざわざ休暇を取って、新幹線で急いで岐阜の実家へ戻り、(今ではほとんど使っていないのだが) タカハシのMT-200で木星面上に現れた衝突痕を見た。意外とはっきり見える黒っぽい衝突痕は、これまで見慣れた木星の印象をがらりと変えるような光景であった。また、この衝突痕を通して、彗



星衝突という珍しい現象に魅了された。本来なら、衝突痕が変化する様子をじっくりと追いかけたかったのだが、それ程長い間休暇を取ることもできず、東京へ帰らざるを得なかったことは残念であった（望遠鏡を持っていくには、MT-200 はあまりにも重たかった）。

(1996～2000)

西暦	元号	主な天文現象	写真・機材など
1996	8	百武彗星(3月頃)	
1997	9	ヘール・ボップ彗星(2～5月頃)	
1998	10		
1999	11		「すばる」望遠鏡完成
2000	12		

1996年 百武彗星

(田村) 明智へ晴れていれば毎日見に行った。地球に接近した頃、長大が尾となり、百武・100度と言われ、彗星で広角レンズが必要だった。

(船戸) 家族を連れてSTで観望した時、娘があまりの虫の多さに以後2度とついてこなくなった

(大野) この彗星が現れた当時は、ウエスト彗星以来の大彗星だと思った。職場の同僚とともに八ヶ岳高原道路の脇にある駐車場で見た長大な尾の長さ

に圧倒された。北天の核からのびる尾は頭上を通り、南の空まで達していた。このような長い尾をもつ彗星は、これまで見たことがない。これはお化けのような彗星だと思った。しかしながら、望遠鏡（ペンタックス75SDHF）で見た彗星のコマは、緑色に輝く美しいもので神秘的な感じだった。



1997年 ヘール・ボップ彗星

(日比) 東の地平線から尾を上に向けて、昇ってきたのを見ました。尾だけでもはっきりと位置がわかるくらいの明るさでした。



(田村) 明智の西空はまったくダメなので、高峰山がメインで観望。ウエスト彗星以来の大彗星となり、非常に満足

(船戸) 派手な彗星でした。ベネット、ウエストを彷彿させる大彗星でした。

(大野) 前年の百武彗星を明るさ大きさ共に大きく上回る、正真正銘のお化け彗星とな

ったことに驚いた。夜空の明るい街中でも、双眼鏡でぼんやりとみられ、夜の街中で彗星の見られる方向へ双眼鏡を向けては（今では不審者と思われるかもしれないが、当時一般の人でもこの彗星を知らない人は多分いなかったのではないかとと思われるくらい有名であったと思う）、よく見ていたことを思い出す。この彗星も、職場の同僚とともに撮影に出かけたりした。これを機に、ペンタックス 100SDUF と同 67 判のカメラを買ってしまうほど撮影に熱中していた。日光の霧降高原、野辺山高原、秩父の登谷牧場などにも遠征した（当時、若かったから無理ができたのかも知れない）。特に野辺山高原で見た西の空の八ヶ岳にかかる雄大な姿は、今でも脳裏に焼き付いている。とても感動した彗星だったが、個人的な印象としては、やはり小学 5 年生の時に見たウエスト彗星の方がすばらしかったように思う。

(高橋 A) 2 月の明け方から 5 月の夕方まで 10 回以上撮影に行きました。とにかく凄い迫力の彗星でした。

(2001～2005)

西暦	元号	主な天文現象	写真・機材など
2001	平成 13	しし座流星群(11 月)	
2002	平成 14	土星食(1/25)	ToUcam・Registax 登場
2003	平成 15		キャノン KISS デジタル
2004	16	ブラッドフィールド彗星(4 月頃)	
2005	17		

2001年 しし座流星群

(日比) 18 日は知多半島で観測したものの、あまり流れませんでした。

19 日はカメラ 3 台を用意し、稲武町で観測。薄明が終わったところに東から西へ空を横切るように流れたのが最初でした。

しし座が高くなるのに従い、流星の数は増し、あきれほどに多く流れるのを見ました。しまいには 2 個同時、3 個同時と複数同時に流れるの

も見ました。友人と一緒に見ていたのですが、トイレ（小）の最中に何個流れるか（見逃すか）数えたところ、11 個くらい流れたのを覚えています。薄明が始まる頃になってもその勢いは衰えなかったように思います。



(田村) 33年に1度のはずで、1999年から、毎年この日には高峰山に行っていた。3年目にして報われる。もう1回、見られるかな？

(船戸) 一生分の流星を見てしまいました。以後ペルセをさほど気にしなくなりました

(大野) 前々年と前年の出現の低調さにあまり期待はしていなかったが、アッシャー氏の出現予測もあったので、駄目もとで野辺山高原へ一人で見に行った。夜中を過ぎた頃から次々と流れる異常な数の多さに圧倒され、少し恐ろしさを感じるほどだった。5つや6つの流星が同時に流れる光景は圧巻だった。その一方では、かえってこの光景にあきれかえってしまい、あいた口がふさがらないほどだった。とにかく、この世が終わるのではないかと感じさせるほどの異常な出現数であり、流れていない時間などほとんどないと言ってもいいくらいだった。カメラをどの方向に向けても必ず流星が写り、流星痕も次々に撮影できたことには驚かされた。しかしながら、このような状況が長く続くと、美味しいものをお腹いっぱい食べた後も次々のごちそうが出てくるような、もううんざりとは言わないまでも、これと似たような気持ちになってくるから、不思議なものである。地平線近くの低空でも、見る方向には必ず流星が視野に入ってくるという光景を、もう二度とは見ることはないかもしれないだろう。とにかく、感激の一言に尽きるものだった。

(高橋A) 最高の天候のもと見る事が出来ました。夜中を過ぎる頃、水平に流星が流れ始め、流星痕も多く見えました。あまりの数に混乱していたみたいで、赤道儀の極軸がズレてる、カメラの構図もメロメロ。途中で飽きて来てしまいました。しかし終わってみればもう一度見たい人間は勝手なものです。

(2006～2010)

西暦	元号	主な天文現象	写真・機材など
2006	平成 18	水星の日面通過(11/9)	
2007	平成 19	マックノート彗星(1月頃) ホームズ彗星バースト(11～12月頃)	
2008	平成 20		
2009	平成 21	中国～トカラ皆既日食(7/22)	世界天文年
2010	平成 22		探査機「はやぶさ」帰還

2007年 マックノート彗星

(大野) マイナス6等まで増光し、昼間でも見られたという彗星(ただし、太陽に非常に近く条件は悪かったが)。3年前に名古屋に戻った私は、夕方、妻と子供2人を連れて藤前干潟近くの稲永公園に向かい、伊吹おろしが吹きつける中、寒い思いをしながら双眼鏡で捜した。日没直後の空はまだ明るく、ましてや沈んだ太陽に近い低空では昼間のような明るさが残っていた。それにもかかわらず、彗星がはっきりと捉えられたのに

は驚かされた。通常なら、彗星などとうてい見られないような明るい空だが、それでも見ることができるという強烈な明るさには本当に驚きを隠せなかった。その明るさに恐ろしささえ感じるほどだった。この40年のうちでは、多分この彗星がもっとも大きく明るい彗星ではなかっただろうか。

2007年 ホームズ彗星

(大野) 予想もしない大增光には驚いた。これこそまさにお化け彗星ではないかと思う。名古屋の自宅のベランダで、首を痛くしながら双眼鏡をよくのぞき込んでいたが、この時期、空が澄んでいたこともあって、よく見えていた。飽きもせず、晴れてさえいれば毎晩必死に見ていた。大島に転勤になった人からよくホームズ彗星の写真が送られてきたが、名古屋で見る彗星

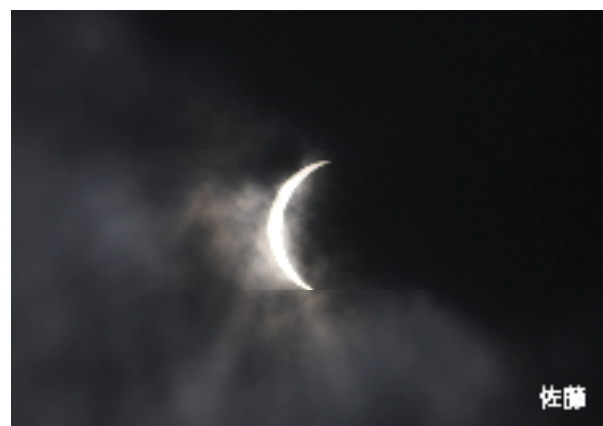


とは比べ物にならないほど明るく鮮明でうらやましかった(別に大島へ転勤して見たいわけではないが)。結局、私は名古屋の自宅や岐阜の実家の街中で、ぼんやりとした姿しか見ることができなかったので残念だった。バースト後、いつまでも変わらない姿を見せたこの彗星は、宇宙ではいつどこでどんなことが起こっても不思議ではないことを教えてくれた。

2009年 中国～トカラ皆既日食

(田村) 新型インフルエンザにて欠席、非常に悔しい思いだった。

(大野) 長年、待ちわびていた皆既日食。いよいよこの時がやってきたという大切なイベント。しかしながら、日本国内のトカラ列島は料金が高く、船上ツアーもすでに満杯。小笠原沖のツアーも高倍率でくじにはずれ、結局中国ツアーへの参加となった。観測場所は、杭州市郊外の安吉という田舎の町にあるホテルの敷地で、貸し切り状態という恵まれた条件だった。皆既中は薄雲がかかったが、雲を通してコロナやピンク色に輝く彩層を肉眼ではっきり見ることができた。今回は日食とその前後だけ晴れた、まさに奇跡的な皆既日食だった。他のツアー客の中には、本当に運が良かったと驚いている人もいた。思い出に残る皆既日食となった。



(高橋A) 同好会メンバーと家族11名で上海の日食ツアーに参加しました。しかし結果は雲に阻まれ、皆既の終わる頃には雨が降り最後は土砂降りと残念な結果に成りました。

40年間の天文現象を辿り会員に当時の思い出のコメントも頂きました。

俗に「見てみたい四大天文現象」として「肉眼で見える大彗星」「流星雨」「皆既日食」「オーロラ」を言われますが、「皆既日食」と「オーロラ」は場所と時期を狙っていけば有る程度見えますが、「流星雨」は33年毎のしし座流星群位ですし、「肉眼で見える大彗星」に関しては殆ど運任せです。しかし幸運にもその多くを見る事が出来ました。また、天文機材やカメラ等の進化やインターネットを通じた情報の収集も40年前には想像出来ないレベルに成ってきています。これからも、色々な天文現象を楽しめれば幸いです。

尚、彗星に関しては、長期に渡り観測可能な物も多いですが、特に観測に適していた時期を中心に表にまとめています。機材などに関しても「ある程度普及して来た時期」を書いていますので、実際と多少違いが有るかも知れないこととお断りしておきます。

コメント協力

田村正直 船戸昭孝 徳重法世 日比敏光 大野滋規 高橋章 (A)

写真提供者

写真に表記のない写真は日比敏光。 飯田由美子 杉田彰司 佐藤博則 安田守良 高橋章 (A)

参考文献

サザンクロス 20周年記念誌「星空を写す」。サザンクロス 30周年記念誌。天文年鑑。ネット上のHPなど。